



祐介の目

No.117

大田祐介 (福山市議会議員)

力栽培品種となり、日本にも多く輸出された。台中65号は、台湾の稲作史上画期的な品種であり、戦後はインドやドミニカにも種籾が渡り現地の食糧難を解決した。磯はグリーンレヴォリューション(緑の革命)を実現した人物であり、遅まきながら福山市の名誉市民に推戴したい。

最後に磯の遺稿を紹介するが、耕作放棄地が太陽パネルに置き換わるように、現代人は農業より金儲け優先ではないか。今こそ農業体験を通じて道徳教育の見直しが必要だ。

「農業と道徳」

いかなる農夫も作物に対する限りた誠あるのみで虚偽は許されない。故に人を道徳的にならしめる。木石を相手にする工人にも道徳が与えられる。物のみでなく生命をも相手にする農人が愛なる要素を加えてさらに人間性を豊かにする。農人は求めず意識せず道徳を授かる民族中の恵まれた階層であり、農業は道徳をも育てる。それにより民族の健全性が保たれ「農は国の基」となる。誠の道徳教育は可能であり技術訓練の中にも生まれる。このことは教育を科学する現代の教育方法にとりて一考を要することと思う。

磯栄吉の遺稿

福山市出身の農学者・磯栄吉をご存じだろうか。磯は日本統治時代の台湾において「蓬莱米」を開発し、戦後も中華民国に請われて現地に残り、農林庁顧問として蓬莱米の普及に従事し、昭和32年に日本に帰国する際に蒋介石より勲章を授与されている。その生涯は福山市立大学の八幡浩二(都市経営学部准教授)が紀要「都市経営」2020にまとめている。

戦前の日本は食糧難で台湾からの米の供給を必要とした。しかし、台湾には細長くて粘りのないインディカ米しかなく、日本人の味覚に合う米の栽培が急がれた。そんな中、磯が260種類にも上る交配種の中から生み出したのが蓬莱米という台湾産日本米である。蓬莱米の中でも特に「台中65号」という品種は昭和4年に初の日本米交雑種として完成させた品種で、病気に強く多く収穫できるため、台湾で主